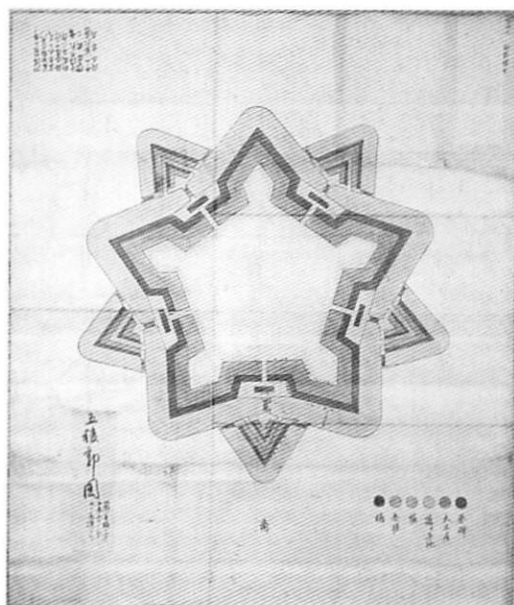


五稜郭初度設計図



五稜郭初度設計図（資料番号：歴史311）



武田斐三郎肖像（函館市中央図書館所蔵）

本資料は、箱館奉行支配下の諸術調所教授役で蘭学者の武田斐三郎成章が設計した五稜郭（箱館新役所）の築造に係わる計画平面図です。

平面図に描かれる Bastion（バスチオン）と呼ばれる稜堡式の土塁と、Ravelin（ラヴェラン）と呼ばれる稜堡間を補完する半月堡壘を有する独特な形態は、16世紀から17世紀のヨーロッパで発達した城塞都市の外郭の特徴と共通するものです。この平面図と築造された五稜郭の形態を比較すると、半月堡壘の数を始め、いくつかの箇所において相違点が多くみられることから、計画の初期段階での草稿の設計図面と考えられます。

武田斐三郎がヨーロッパ発祥の西洋式土塁を設計するに至った経緯については、安政2年(1855)、箱館入港のフランス軍艦コンスタンティーン号の将官から教授を受けたとされる記録があります。その内容については、フランスのパリ郊外に12～13箇所存在する砲台の図面を写し取らせていることと、フランス将官から武田斐三郎が直々に大砲などの軍事学関係の教授を受けたというものです。これに加えて、武田斐三郎自身の談とされる記録においても「去年の仏船から得たフランス様式に修飾を加え、亀田砦（五稜郭）を設計した」と、フランスから教授を受けて西洋式土塁の五稜郭の設計を行ったことがわかります。

フランスが提供した砲台の図面については、市立函館博物館や函館市中央図書館に所蔵されている安政3年製の「箱館柳野御陣営之図」「箱館城図」など複数枚ある五稜郭絵図面とみられます。この複数枚の五稜郭絵図面と初度設計図を比較すると、初度設計図に描かれた五稜郭は、半月堡壘の形態等を簡略化するなど、修正を加えた様子を伺うことができ、武田斐三郎の記録と照合していると思われます。

なお、初度設計図の由来については、安政元年(1854)のペリー来航時の箱館の名主であった四代目小島又次郎の所持品と伝えられていて、この小島家の子孫から昭和44年に市立函館博物館に寄贈されたものです。四代目小島又次郎は、妹美那子が武田斐三郎に嫁いだという姻戚関係にあることから、小島家に斐三郎の直筆である絵図面が残されたものと推定されています。

このように、五稜郭初度設計図は、武田斐三郎の直筆であることと、国内に存在する数少ない西洋式土塁である五稜郭築造の変遷を物語る第一級資料といえることなどから、平成20年10月8日に函館市の有形文化財に指定されました。

田原 良信

平成21年度中空土偶展報告

国宝中空土偶と函館の文化財



平成21年度中空土偶展「国宝中空土偶と函館の文化財」では、国宝中空土偶を中心に国・北海道・函館市によって指定された函館の文化財 172点を一堂に集め、平成21年4月25日(土)～5月17日(日)までの23日間(実開館日数22日間)で5,110名の方々にご覧頂きました。

展示室は国宝中空土偶とその最新調査結果(CTスキャン画像や実測図など)を中心に展示し、その周囲を「考古」「歴史」「民俗」「美術」の4つのコーナーで構成しました。それぞれのコーナーでは「北海道の考古学発祥地函館」「蝦夷地の中心地函館」「北海道の知の集積地函館」「多くの篤志家に支えられた芸術都市函館」をテーマに、恵山貝塚出土資料に代表される能登川コレクションや中世北海道を物語る石崎八幡神社の鰐口、函館出身の考古学・民族学者馬場脩によって北海道・樺太・千島で収集されたアイヌ民具や函館の文化人・経済人の努力によって収集された小玉貞良筆蝦夷国風図など、函館だからこそ見ることのできる貴重な指定文化財を展示しました。



函館市内の文化財マップ



ジュニア解説に聞き入る親子

また関連事業として一般向けの展示解説セミナーを開催したほか、子供向けのジュニア解説も開催し、熱心な参加者から多種多様な質問が寄せられるなど、充実した展覧会となりました。

大矢 京右

平成21年度特別企画展報告

アイヌの美ーカムイと創造する世界ー

ロシア民族学博物館・オムスク造形美術館所蔵資料



本展はロシア民族学博物館からアイヌ民族資料215点、オムスク造形美術館からアイヌ絵12点を借用し、函館、帯広、京都と3会場を巡回しました。当館では平成21年7月18日(土)から9月6日(日)まで44日間、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構と共催で開催し、2,752名の方にご来場いただきました。開会式には、ロシア民族学博物館のミーリン副館長、チスチャコワ海外渉外部部長、ゴルヴァチョヴァ・シベリア部部長、オムスク造形美術館のセヴォスチャノワ研究員が列席されました。

展示では「まかなう」「まとう」「いのる」の3つのコーナーで1912～13年に北海道平取やサハリンで収集されたアイヌ民族資料を紹介し、「描かれたアイヌの世界」で、本邦初公開となる平沢屏山のアイヌ絵12枚と、北海道開拓記念館、函館市中央図書館、当館所蔵のアイヌ絵を一堂に集めました。幕末の箱館で絵馬屋として活躍した平沢屏山(1822～76)、その作品がロシアで確認され、開港150年の記念すべき年に函館に里帰りし、1862年の西洋紙に描かれたことが確認されました。開港場箱館ならではの体験でしょう。

シンポジウム「箱館開港とアイヌ絵師平沢屏山」では文書やアイヌ絵などから平沢屏山について掘り下げられました。また、OKIさんのトンコリコンサートは、展示室で資料に囲まれて生の音楽を聴き、アイヌ文化を五感で感じる事ができたと、参加者に大好評でした。霜村 紀子



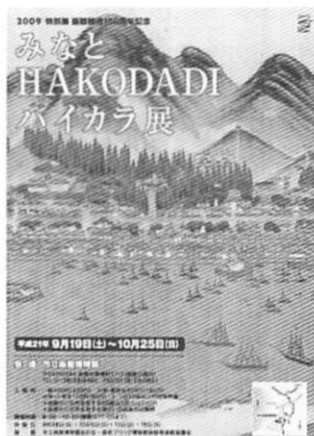
開会式に参列されたロシアの方々(中央4名)を中心に



OKIさんのトンコリコンサート

平成21年度特別展報告

みなと HAKODADI ハイカラ展



今年は函館開港150周年を迎え、市内各地でイベントが行われました。当館では「みなと」と「ハイカラ」をキーワードに絵地図や古写真を中心に展示しました。9月19日から10月25日までの開催期間中に2,281名の方々にご観覧頂きました。

展示は四つのコーナーからなり、「異国との出会いー開港前のはこだて」では、松前三湊の一つとしての箱館と今回は江差の関川家資料から調度品や間尺帳などの文献資料を展示しました。「ハイカラがやってきたーペリー来航そして箱館開港」では、和親条約締結の開港により来港したペリー艦隊来航の様子、通商条約締結による貿易開港した箱館の街を描いた絵図などの資料を展示しました。「ハイカラな都市へー港と街の発展」では、市街を写した明治・大正期の古写真を大きく引き伸ばし、建物の名称を記入したパネルを作成し、観覧者の目を引いていました。「港まつりと函館大火」では、昭和9年に街の1/3を焼失した大火災と、翌年大火からの復興と開港77年を記念して開催された「港まつり」を映像などで紹介しました。

保科 智治



左：10月6日老人大学受
講生への展示解説

右：見応えのある松前檜
山屏風

平成21年度企画展報告

現代書と墨・硯 函館の五人展



感謝状贈呈式の様子



説明する千葉軒岳先生と聞き入る実習生

現在、函館の書壇において第一線でご活躍される5人の書家ー永田青雲、西田徹心、中島青霄、千葉軒岳、高橋海堂ーから作品が寄贈されたことを契機に、平成21年11月17日(火)から12月20日(日)まで、企画展として本展を開催しました。

5人の書家は北海道学芸大学函館分校(現北海道教育大学函館校)で学び、それぞれの手法で書を展開し、後進を育成し、書壇を率いてこられました。書家が思いを込め、「臥牛山」「中空土偶」といった函館の情景や函館市の文化財をテーマとして新たに制作したもの、または生涯の代表作などから、函館市に遺すべき貴重な作品を選びすぐり、ご寄贈くださいました。

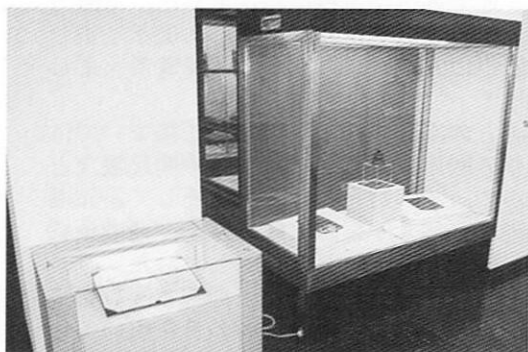
初日には感謝状の贈呈式が行われ、その後作品解説を聞きながら会場を一周し、作品の構想から題材選定、筆や墨などの制作道具についても詳しくお話ししていただきました。博物館実習の最終日でもあり、学芸員を目指す教育大学の実習生たちが、大先輩にあたる書家の言葉に熱心に耳を傾け、興味津々の様子で聞き入っており、思いがけず貴重な交流の場となりました。

今回の作品の収蔵は、現代の函館書壇を保存することと言っても過言ではありません。これらの作品を通して、同じ学舎で学んだ書家がそれぞれ一国一城の主として猛々しく活躍する現代の書壇が見え、今後の活動にいつそう期待を寄せる内容となりました。また、今回の展示にあわせて、中島青霄先生から硯のコレクション、千葉軒岳先生から墨・骨董の貴重なコレクションを快くお貸しいただき、盛りだくさんの内容でご紹介することができました。

霜村 紀子

平成21年度ロビー展より

博物館交流展—環オホーツク圏にくらした北方民族と研究者たち—



展示された博物館姉妹提携協定書



博物館友の会による展示見学会

沿海地方国立アルセニエフ博物館と当館の間に博物館姉妹提携が結ばれてから7年目を迎える本年は、特別企画展「アイヌの美」展と連動して、「博物館交流展」を開催致しました。今回は、函館とウラジオストクが共同で取り上げられるテーマとして、特別企画展の資料とも深い関わりを持つ、環オホーツク圏の北方民族研究に光をあてたB. ピウスツキ、V. K. アルセニエフ、鳥居龍蔵らを取り上げました。

中でも、ポーランドに生まれたB. ピウスツキは、1887年皇帝暗殺未遂の嫌疑によりサハリンでの強制労働に送られたことを契機に、極東先住諸民族の調査と交流を始めます。1899年にロシア地理協会アムール支部の博物館（ウラジオストク）館員となり、1902年から1905年までロシア科学アカデミーの委嘱で樺太調査旅行を実施。今も残されている「ロウ管」や写真の他、有形・無形の様々な資料を収集し、列強の狭間で翻弄された彼らの貴重な資料を残しました。1903年、1905・6年にはV. S. シェロシェフスキとともに北海道を旅行、二風谷でアイヌ資料を収集し、函館にもその足跡を残しました。

彼のフィールドワークによる『サハリンのアイヌ』、『サハリンアイヌの熊祭』他多くの著述はアイヌ研究の古典とされ、収集した資料はロシア人類学民族学博物館、ロシア民族学博物館、ハバロフスク、ウラジオストク、ユジュノサハリンスクの郷土博物館にも保管されています。

佐藤 智雄

博物館実習と新収蔵資料展



新収蔵資料展を完成させて記念写真



親子連れなどでにぎわう展示会場

市立函館博物館における実習は、平成21年10月25日から11月17日までの約3週間に渡って行われました。市立函館博物館には大量の資料が保存されており、民俗・考古・自然系といった様々な分野の資料が揃っています。前半では資料の取り扱いや保存方法などについて学び、それらの資料を実際に触って確認しながら、燻蒸のために1階にある収蔵庫へ運びました。大量の資料を屋上から1階へ運ぶ苦労もありましたが、資料を実際に手に取ることで嬉しさの方が勝っていました。日を追うごとに疲れが溜まってはいったのですが、資料に触れる度に疲労は忘れていったように思います。

後半は平成20年度に寄贈をして頂いた新収蔵資料の展示企画および準備をしました。実習生が3つの班に分かれそれぞれに担当する資料を割り振り準備をしたのですが、非常に細かい点まで気を使わねばならず苦労しました。また当然ながら実習生にとっては初めての展示企画であり、学芸員の方々からの多数のご指摘を頂きました。改良の繰り返しの末に、終わってみれば最初に描いていた展示図とは全く異なったものとなっており、学芸員の方々の展示への真剣さと厳しさを学びました。

我々実習生は、貴重な経験を通して博物館とは何たるかをごく一部でも掴んだと確信しています。そしてその経験が、これからどのような道に進もうと、我々が忘れられないものであることは確かです。

埼玉大学 教養学部3年 和田 風人

平成21年度博物館講座開催実績

【通年講座(ワークショップ)】

No.	講座名	開催期日	参加者数
1	自然観察入門講座(年10回)	4月5日(日) -3月7日(日)	10
2	四季の星空観測講座(年4回)	5月8日(金) -1月22日(金)	19

【単 独 講 座】

No.	講座名	開催期日	参加者数
1	展示解説セミナー 「国宝中空土偶と函館の文化財」	5月4日(月)	30
2	宇宙と天体シリーズ 「春の星座を見てみよう」	5月8日(金)	22
3	Jr.考古学ハカセ養成講座1 ジュニア解説「国宝中空土偶と函館の文化財」	5月10日(日)	22
4	地域の身近な自然を調べる 「浜辺の漂着物を調べよう」	6月13日(土)	9
5	Jr.考古学ハカセ養成講座2 バスツアー「南茅部ぐるっと見て歩き！遺跡見学」	6月14日(日)	27
6	バスツアー「蝦夷地三湊巡りの旅ー 函館・江差・松前」	6月20日(土)	44
7	函館開港150周年記念シンポジウム 「箱館開港とアイヌ絵師平澤屏山」	7月18日(土)	43
8	宇宙と天体シリーズ 「夏の星座を見てみよう」	7月24日(金)	22
9	親子で作る 「ベタベタアート」	7月25日(土)	18
10	身近な自然を調べる 「親子で行くエコツアー 黒松内ブナの旅」	7月26日(日)	8
11	夏休み自由研究 「鉄道車両の仕組みとJR見学会」	7月28日(火)	33
12	わくわく科学教室 「ドライアイスで遊ぼう」	7月29日(水)	19

No.	講座名	開催期日	参加者数
13	わくわく科学教室 「シリカゲルを科学する」	7月30日(木)	17
14	Jr.考古学ハカセ養成講座3 「一日学芸員体験」	7月31日(金)	8
15	夏休み自由研究 「昔の道具を調べよう」	8月5日(水)	33
16	展示解説セミナー 「アイヌの美-カムイと創造する世界-」	8月8日(土)	18
17	Jr.考古学ハカセ養成講座4 「動物の骨で釣針を作ってさかなを釣ろう」	8月11日(火) 8月12日(水)	18
18	Jr.考古学ハカセ養成講座5 「勾玉を作る」	8月15日(土)	21
19	ナイトミュージアム 「OK!トロンコリコンサートー伝統音楽の タペー」	8月22日(土)	60
20	宇宙と天体シリーズ 「ガリレオが見た太陽系」	8月23日(日)	4
21	Jr.考古学ハカセ養成講座6 「遺跡発掘体験」	9月19日(土)	12
22	展示解説セミナー 「みなとHAKODADIハイカラ展」1	10月3日(土)	3
23	Jr.考古学ハカセ養成講座7 「土器づくり」	10月10日(土)	9
24	展示解説セミナー 「みなとHAKODADIハイカラ展」2	10月17日(土)	16
25	わくわく科学教室 「イカを科学する」	11月28日(土)	10
26	冬休み自由研究 「手作りおもちゃで遊ぼう」	1月7日(木) 1月8日(金)	46
27	Jr.考古学ハカセ養成講座8 「縄文の布ーあんぎん編みー」を体験し よう	1月13日(水)	13
28	冬休み自由研究 「さし絵に挑戦！」	1月14日(木)	24
29	わくわく科学教室 「もしも原子が見えたなら」	1月14日(木) 1月15日(金)	9

○平成21年度博物館講座報告○

Jr.考古学ハカセ養成講座



館長から学位記を授与される受講者

本年度、初めての試みとして、平成21年5月から平成22年1月までの間に、「Jr.考古学ハカセ養成講座」と題した小学生向け講座を8回開催しました。

本講座は全ての講座を受講した小学生に「Jr.考古学ハカセ」の学位を授与するという趣旨で開催し、周知不足ではあったものの毎回熱心な親子でにぎわい、2名の博士号取得者と1名の修士号取得者(1回欠席)が出るなど、成功裡に終了することができました。

講座最終日に開催された学位授与式では、報道陣を前に3名の学位取得者が館長から学位記と記念品を授与され、一緒に参加した保護者の方々とともに楽しそうに1年間を振り返っていました。

大矢 京右

○平成22年度展覧会開催予報○

特別企画展

いきもの事始めー函館発 博物学大事典ー

箱館開港を機に、函館には多くの外国の研究者が訪れ、日本の博物学の近代化に多大に貢献することになりました。

展覧会では、日本の博物学の発展に果たした役割について、ペリー来航以後に函館にきた国内国外の研究者や関係者、明治以降に博物館に関わった人々、それに伴って集められた自然資料や関連する資料を、当館所蔵の自然コレクションとともに展示・紹介します。本邦初公開の資料も展示しますので、ご期待ください。

※平成22年4月24日(土)～7月11日(日)開催予定
佐藤 理夫

特別展

縄文の至宝ー世界遺産をめざす15遺跡と土偶ー

平成21年1月に、函館市大船遺跡を含む北海道・北東北の縄文遺跡群が、ユネスコの世界遺産暫定リストに正式に記載されました。これを記念して、函館市が誇る中空土偶や新たに国宝指定を受けた八戸市風張遺跡出土の合掌土偶(複製資料)とともに、暫定リストに記載された15の遺跡とそれらの遺跡から出土した資料を展示・紹介する予定です。

※平成22年7月24日(土)～9月26日(日)開催予定
大矢 京右

新館長就任の ごあいさつ

館長 田原 良信



10月20日の道南ブロック博物館
施設等連絡協議会でのあいさつ

平成21年4月1日に市立函館博物館長に着任した田原良信です。前任職は、函館市教育委員会生涯学習部文化財課長で、文化財関係業務を手掛けておりました。博物館勤務は二度目で、平成元年5月から平成6年3月まで、約5年ほど博物館五稜郭分館と博物館本館で、歴史・民俗・考古資料担当の学芸員として勤務をしていました。

15年ぶりの博物館勤務となった平成21年度の函館博物館では、春の「国宝中空土偶展」に始まり、夏の特別企画展「アイヌの美—カムイと創造する世界—展」、秋の特別展「みなと HAKODADI ハイカラ展」、その後の新収蔵資料展などなど、学芸員スタッフは非常に忙しい1年を過ごした姿に、以前の自分たちの姿を重ね合わせてみても、それ以上に「よくこなしているなあ」とただ感心をしておりました。それというのも、私が以前に勤務をしていた当時は、1年の中でこれほど多くの展覧会事業を実施した経験はありませんでしたので……。これにも増して、資料収集、整理、調査、研究にと日々忙しい学芸員のみなさんと、博物館管理・運営を着実に進めた事務のみなさんの頑張りがあって、市民の方々から好評の声をいただくことができ、大変嬉しく思っています。

函館博物館収蔵の資料は、地方博物館では日本一と思っています。今後ともに、これら数多くの資料に出来るだけ光を当てることに邁進していきたいと願っております。

平成21年度新収蔵資料紹介

ここに掲載している新収蔵資料は、平成21年4月1日から平成22年1月31日までに受け入れたものです。

○寄贈資料

- ・絵はがき 52件52点
[函館市：嶋崎 孝治 氏 寄贈]
- ・梁川剛一挿絵原画 一括
[東京都：梁川 美恵子 氏・斎藤 ルリ子 氏 寄贈]
- ・同盟機関紙 1件4点
[東京都：小森 良彦 氏 寄贈]
- ・書「臥牛山」他 2件2点
[函館市：永田 敏雄(青雲) 氏 寄贈]
- ・書「七四八凸」他 4件4点
[函館市：西田 哲夫(徹心) 氏 寄贈]
- ・書「甲骨の世界」他 3件3点
[函館市：中島 康夫(青霄) 氏 寄贈]
- ・書「啄木浪漫」他 5件5点
[函館市：千葉 喜彦(軒岳) 氏 寄贈]
- ・書「唯」他 3件3点
[函館市：高橋 健樹(海棠) 氏 寄贈]
- ・種痘済証・猶予証 1件6点
[函館市：伊倉 邦夫 氏 寄贈]
- ・エゾセンニュウ 1件1点
[北斗市：佐藤 理夫 氏 寄贈]

博物館機構・職員構成

■市立函館博物館

〒040-0044 函館市青柳町17-1

Tel. 0138-23-5480 Fax. 0138-23-0831

http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/museum
hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

館長	田原 良信
管理主査	金木 照之
	富永 隆一
	谷 智恵子
	佐藤 恒一
学芸主査	佐藤 理夫 (自然)
学芸員	佐藤 智雄 (歴史・民俗)
学芸員	保科 智治 (歴史・民俗)
学芸員	霜村 紀子 (美術)
学芸員	大矢 京右 (考古・民族)
	山本 泰子

◇函館の歴史や自然、生活道具、函館周辺の考古資料、美術資料を展示

■郷土資料館 (旧金森洋物店)

〒040-0053 函館市末広町19-15

Tel. & Fax. 0138-23-3095

◇金森洋物店、明治・大正期の生活道具を展示

一誌名SARANIP(サラニップ)について—
アイヌ語：シナの樹皮で編んだ袋。
博物館情報や研究成果などをSARANIPに
入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっ
ていくようにと命名したものです。



SARANIP—サラニップ—No. 49 2010. 3. 31発行

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

函館市青柳町17-1 (函館公園内)

Tel. 0138-23-5480 Fax. 0138-23-0831